

郷土を知る  
むかしむかし

# 昔々の そお市

【開】

第73回



## 交通の要衝 とおうやましゅうくばあと ～通山宿場跡～

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

江

戸期の薩摩藩内で利用された交通ルートの一つに曾於市域を通じた東目筋（高岡筋）があります。

鹿児島を起点に、加治木・隼人・国分・福山・末吉・財部・都城を経て宮崎市高岡に至るルートで、おおよそ現在の国道10号線にあたります。

東目筋において通山地区は鹿児島、福山、都城を繋ぐ重要な場所でした。筋を挟んで財部側・末吉側にそれぞれ宿場が置かれ、公用の手紙や荷物の取次、役人の送迎などが行われていました。宿場には末吉、財部から郷士が交代で詰め、馬や人夫も控えていました。馬や人夫は「何日何時までに馬何頭、人夫何人を出すように」との動員を要請する通達を出し備えていたそうです。また財部側の宿場は牧之原から通山間、末吉側は通山から都城境までと区間を分担して文書の取次や役人の送迎を行っていました。

参勤交代で藩主が東目筋を利用される際には、通山に設けられた休息所（お茶ん場）でしばし休憩されるのが通例で、村一番の娘が綺麗に着飾りお茶を出していたと話が残ります。

通山宿場は、大正期頃まで多くの人が行き交い相当の賑わいがあったようです。通山郵便局が市内で最も古い明

治7年に開局されたということからもいかに重要な地域であったことがうかがえます。現在の通山地区は宿場としての役目を終えています。国道10号線と東九州自動車道が末吉財部ICで接続し、曾於市の玄関口とも言える交通の要衝であることに変わりはありません。また、紙面では紹介しきれない文化財が点在する地域でもあります。近くにお越しの際は、多くの人々が行き交った「通山宿場」の情景を思い浮かべてみてください。



通山宿場跡（財部側）

通山地区の文化財  
六地藏塔、石坂牛之助（火の神）の墓  
歯の神様、橋口吉国（西南戦争の戦死者）の墓など

### 曾於市史編さん情報局

曾於市にゆかりのある資料・写真・情報をお持ちの方は生涯学習課までご連絡ください。

右記は、市民より提供頂いた「悠久の森」で見られる樹木や植物をまとめた教材冊子です。

曾於市史では自然史も収録予定です。このような、曾於市の自然に関する資料も収集しています。



【アクセス】